

+++++2014・12・01

「月刊文風」11月号を発刊しました

2014 年11月号 秋山如粧 7日・立冬 22日・小雪

編集月旦

★全国各地で暮らしている3000万人の高齢者(65歳～)のみなさん、それぞれの場で立ち上がる(自立)べき時がきました。このままでは、師走総選挙が終わって、低い投票率で、安倍政権を「しかたがない」といつて認める結果が出たところで、そこからなにか経済のデフレーション(萎縮)を止める新たな力が湧いて出るでしょうか。高齢者は、これまで以上に格差が強まる世相のなかで、先人が蓄えてくれた「敬意」を失っていくでしょう。

☆「自立・参加・ケア・自己実現・尊厳」(国連が掲げる「高齢者五原則」)は、国際的な指針であるとともに国際的に先頭をゆく日本の高齢者にとっても指針であるはずで、す。それなのに、どれほどの高齢者が実人生の指針として理解して、日々の暮らしに活かしているでしょうか。「ケア」を期待し、「尊厳」を求めるだけでは、先人が働きづめに働いて残してくれた“遺産”によって実現した「社会保障」は、「人生65年」時代の「定年余生」型の意識のままでは保てません。「人生90年」時代の“誇るべき長寿”を安心して過ごすためには、「長生現役」の意識によって、社会の萎縮(デフレーション)を、一人ひとりが克服していかなければならないでしょう。このことは、1999年の「国際高齢者年」(どれほどの高齢者が記憶しているでしょうか)以来、この国の高齢化対策の経緯を見据えてきた立場からの警鐘として、もう一度、ここに叩き出すことになります。

★全国各地で暮らしている3000万人の高齢者(65歳～)のみなさん、それぞれの場で立ち上がる(自立)べき時がきました！

☆そんな大それたことをするわけではなく、今世紀10年余り延滞してきた「日本高齢社会」形成のために、いま居る場所で、まずひとり立ち(自立)、三人、五人そして10人ほどの仲間と呼びかける。それは全国津々浦々に小さな水玉模様のように重なって広がっていく。めいわくメールをかき分けて10人の仲間と交信しあい、3000万人の高齢者が衆口一詞「オールジャパンの長寿社会(成熟社会)構想を掲げよう」と呼びかける。この声に和することができる候補者を一人でも多く国会に送り出せばいい。そして来年4月の「統一地方選挙」には、全国各地でまさに「声振林木」、みんなの心を震わせる大合唱にすることができれば、「日本高齢社会」への国論が定まって、達成に向かうでしょう。

+++++2014・11・03

「月刊文風」10月号を発刊しました

2014 年10月号 秋山如粧 8日・寒露 23日・霜降

編集月旦 2014年10月号

★日本銀行はまた**金融緩和**をしました。「公」(格差を容認しない)による「大同社会」ではなく、「利」によって格差を許容しつつ社会を動かそうとしています。「上下こもごも利をとれば国危し」(『孟子「梁恵王章句」』より)が憂慮されます。みなが利をむさぼりとるとき、国は危うくなる。とくに上位のものが大きく奪うとき、国はいっそう危うくなる。企業は業績ではなく期待感で株価を上昇させています。国民の「デフレ・マインド(萎縮の心理)」の克服には、みんなが生涯を安心して暮らせる「長寿構想」の提案こそが急務です。

★「日本の社会・将来の姿 いま、この人たちの声を聴こう」を再録いたします。それぞれの方が確かな将来像を述べておられます。樋口(恵子)さんは史上初の「人生100年社会」です。小宮山(宏)さんは「産業革命」から「プラチナ革命」へ。わが国は新しい価値QOLである「省エネ時代」に入っていることを具体例によって示しておられます。原(勝則)老健局長は「支えられる高齢者」への「医療・介護」を確保する「地域包括ケアシステム」の充実を示し、同時に堀田(力)さんは、「支える側の高齢者」の地域参加を訴えて、「新地域支援構想」の説明で全国の自治体をまわっています。双方への理解と対応が、安心して地域で暮らす高齢者側の務めです。秋山(弘子)さんは高齢社会活動の成功事例を集めた「リソースセンター」の設立を提案。藤井(裕久)さんは「平和」を危うくする「戦争」への萌芽を近代史のなかに学ぶセミナーをつづけておられます。

★本稿が「新論考」で提案する「**長寿時代のライフサイクル**」は、「青少年期」「中年期」を過ぎしおえて「高年期」にある人びとに手厚く、納得されるものとなっています。

青少年期	〇歳～二四歳	自己形成期	2844万人
バトンゾーン	二五～二九歳	選択期	668
中年期	三〇～五四歳	労働参加・社会参加期	4233
パラレルゾーン	五五～五九歳	高年準備期・自立期	765
高年期	六〇～八四歳	地域参加・自己実現期	3721
高年前期	六〇～七四歳		2607
高年後期	七五～八四歳		1114

総人口(2014・10・1現在概算値) 1億2709万人

(「自立・参加・ケア・自己実現・尊厳」の五つは国連が提唱する「高齢者五原則」)

六五歳以上 3300万人(26. 0%) 七五歳以上 1592万人(12. 5%)

★2022 年「世界高齢化会議WAA22」招致は、わが国が 2020 年「東京オリンピック・パラリンピック」とともに同時進行で推進すべき国際的課題です。

★新論考『まあ、いいか、でいいか「人生90年」時代を前にして』(10・1稿)を巷間に投じます。元気な高齢者が「引退余生」ではなく「現役長生」型の意識をもつこと、潜在力を発揮して地域で「共生の文化」創成の活動をし、職域で定年を前にした高齢社員とともに高齢者向け自社製品を創出して、地域と職域で存在感を示す時期にあります。

来年の「地方創生」事業、「地方選」を通じて、全国に「シニア生活圏」を形成することが、地域・平和・民主主義を守る“歴史的事業”となると確信しています。

+++++2014.10.03

「月刊文風」9月号を発刊しました

2014 年9月号 秋山如粧 8日・白露 23日・秋分の日

編集月旦 2014年9月号

★秋山如粧。「敬老の日」(第3月曜・15日)「老人の日」(15日)「老人週間」(15～21日)」を過ぎて。秋分(23日)も過ぎて。

★9月が「高齢者に関する活動月間」であることが、自治体の取り組みとして定着してきています。福祉中心ですが、高齢人材養成やしごとづくりや居場所づくりでの展開が加われば、「運動月間」として年々の成果が期待されます。

★臨時国会がはじまりました。アベノミクスという異次元の前払い政策(利による対策)の即効効果に陰りが濃くなっています。「第3の矢」として安倍首相には女性登用(実績がない)のほかに打つ手がなく、緊急に“異次元の手”を打たねば金融危機も想定されます。

★この間、増田寛也・日本創成会議座長の「896自治体消滅論」が人口減少で、石破地方創生担当相の「まち、ひと、しごと創生会議」が地域でのしごとの創出と若者の

生きがいで「地域の話題」になりましたが、増田・石破さんの議論では、総体的な地域創成・創生の姿が立ち上がってきません。政治家はなんで高齢者がもつ「知識」「技術」「資産」という潜在力の出動を求めないのでしょうか。

★29日の「所信表明演説」で安倍首相は、若者と女性には呼びかけましたが、「高齢者」にはまったく言及しませんでした。言及がなくとも高齢者層が自主的に動くことで、か、「地方創生」も持続的な「経済再生」(内需)も本格化しないでしょう。

★いま「引退余生」ではなく、「現役長生」型の意識をもつ高齢者層(本稿の丈人層)が潜在力を発揮して地域で活動し、職域で定年を前にした高齢社員とともに高齢者向け自社製品を創出して、地域と職域とで存在感を示す時期にきています。地域での「共生の文化」をいわれる堀田さんはもっと危機的緊急時と把握されています。

★新論考『まあ、いいか、でいいか「人生90年」時代を前にして』(9・23稿)をすみやかに巷間に投じて、急ぎ堀田支援軍を送りたい。どうかご支援ください。来年の地域対策、地方選を通じて、全国に水玉模様のような「シニア生活圏」を形成することが、地域・平和・民主主義を守る“歴史的事業”となると確信しています。

★「いま、この人たちの声を聴こう」を再録いたします。それぞれに確かな将来像を述べておられます。☆樋口さんは史上初の「人生100年社会」です。この講演は高齢社会を形成するプロセスを理解する上での歴史的文書です。☆小宮山さんは「産業革命」から「プラチナ革命」へ。大量生産時代を終えて新しい価値QOLである「省エネ時代」にはいつていることを具体例によって示しておられます。☆原老健局長の説明は住み慣れた地域での「支えられる高齢者」への「医療・介護」を包括的に確保する「地域包括ケアシステム」の充実を示し、同時に堀田さんは、「支える側の高齢者」の地域参加を訴えて、「新地域支援構想」の説明で全国の自治体をまわっておいでです。双方への理解と対応が、安心して地域で暮らす高齢者の側の務めです。☆秋山さんは高齢社会活動の成功事例を集めた「リソースセンター」の設立を提案。東大のリーディング大学院での人材育成や柏市のまちづくりや第2回「高齢社会検定試験」をおこなうなど、ご本人の成果の積み上げは明解です。☆民主党顧問の藤井さんは、「戦争に向かわない社会を守りつづける政治」「歴史に学ぶ政治」を実践しておられます。近現代史研究会のオープンフォーラムはそのひとつ、「戦争」を中心テーマに昭和の歴史にその起因をさぐっています。

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むだれもが等しく豊かさを享受できる「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の目標です。(編集人 記)

+++++2014・08・25

「月刊文風」8月号を発刊しました

2014 年8月号 夏山如滴 7日・立秋 23日・処暑

文風夏のセミナー 高齢者が「歴史をつくる」とき
いま、この人たちの声を聴こう

*「人生100年社会」の初代として

「シニアの社会参加で世代をつなぐ」 [樋口理事長基調講演 20130717](#)

樋口恵子 高齢社会をよくする女性の会理事長 講演(2013 年 7 月 17 日)

*「産業革命」から「プラチナ革命」へ [小宮山理事長講演 20140211](#)

日本「再創造」ー活力ある長寿社会へのイノベーション

小宮山宏 プラチナ構想ネットワーク会長 講演(2014 年 2 月 11 日)

*「支えられる高齢者」へ最良の「医療・介護」地域支援

「地域包括ケアシステムの構築と介護保険制度の見直し」(2014 年 3 月 24 日)

原勝則 厚生労働省老健局長 制度解説 [原局長制度解説 20140324](#)

* 堀田力 さわやか福祉財団理事長 に聞く(2013 年 10 月 31 日)

「新しいふれあい社会の創造」を旗じるしに20年 堀田理事長に聞く 20131031

*「支える側の高齢者」の地域活動参加 [堀田理事長講演 20140324](#)

「新地域支援構想会議の取り組みと新たな地域支援への考え方」

堀田力さわやか福祉財団理事長 講演(2014 年 3 月 24 日)

*「共生の文化」をつくる提言「あたたかく助け合う地域社会へ」 [堀田会長講演 20140729](#)

堀田力 さわやか福祉財団会長 講演(2014 年 7 月 29 日)

* 秋山弘子 東京大学特任教授 に聞く(2013 年 11 月 28 日)

「ああいう国になりたいという国がくれるか」 [秋山教授に聞く 20131129](#)

*「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

「コミュニティの高齢化課題解決リソースセンター」構想 [秋山シンポ 20140211](#)

秋山弘子 東京大学特任教授 シンポジウム司会進行(2014 年 2 月 11 日)

* 藤井裕久 民主党顧問 に聞く I～IV [藤井顧問に聞く I～IV](#)

「戦争のない社会」を守りつづける政治・歴史から学ぶ政治

I 2012 年 10 月 4 日 II 2013 年 1 月 18 日 III 2013 年 8 月 23 日 IV 2014 年 1 月 21 日

+++++2014・08・05
「月刊文風」7月号を発刊しました

編集月旦 2014年7月号

★内閣府主催による「高齢社会フォーラムin東京」7月29日(火)イイノ・カンファレンス・センターに参加してきました。ことしも基調講演は樋口恵子、堀田力両氏で変わりませんでしたが、分科会が「地域社会活動の活性化」「多世代からみたシニアの意識改革」「シニアと多世代がつながるために」となって、「全員参加型社会を目指して～多世代が経験を分かち合う～」へと一歩踏み出したようです。

☆分科会は「多世代からみたシニアの意識改革」(松田智生コーディネーター)に出てみました。若いパネリストから、いろいろなシニアが紹介されました。「嫌われシニア」「愛されシニア」「孤独なシニア」「アクティブ・シニア」「プラチナ・シニア」「良いシニア」「困ったシニア」「悪ガキ・シニア」などです。「嫌われ・困ったシニア」というのは、差別する、空気が読めない、自分のことばかりいう。「愛され・良いシニア」というのは、いさぎよい、自他がわかる、甘えさせてくれるなど。「悪ガキ・シニア」は評判がよかったです。

+++++2014・07・05
「月刊文風」6月号を発刊しました

2014 年6月号 夏山如滴 6日・芒種 21日・夏至

高齢者(4人に1人)が「歴史をつくる」とき

◎新提案 2022年「第3回 高齢化に関する世界会議」を日本に招致しよう
2020年「第32回 東京オリンピック」とともに [WAA22案 201406月](#)

◎対策大綱「高齢社会対策大綱」(2012年9月)が改訂されて1年9カ月「人生65年時代」から「人生90年時代」への意識変革と社会参加 [大綱全 2012・09a](#)

◎ニュース「地域医療・介護総合確保推進法」が成立 6・18[成立 0618 ニュース](#)
「地域への事業移管」で「支える高齢者層の参加」が不可欠に

◎新情報 「地域医療・介護総合確保推進法」成立の経緯

医療提供体制及び介護保険制度改革の概要と論点 厚生労働委員会調査室 [改革概要論点](#)

「地域医療・介護総合確保推進法」法律案の概要 [「医療・介護法」概要](#)

議案審議情報 参議院

[議案審議情報参議院](#)

議案 地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律案 衆議院 [「医療・介護法」衆議院議案](#)

在宅医療・介護の推進について 在宅医療・介護推進プロジェクトチーム [在宅医療・介護の推進](#)

国民会議報告書とプログラム法案の骨子 厚生労働委員会調査室 [法案骨子 2013・10](#)

プログラム法が成立

[プログラム法成立 2013・12](#)

◎関連情報 「生活支援サービス推進セミナー」全国社会福祉協議会 3・24 から
「地域包括ケアシステムの構築と介護保険制度の見直し」

原勝則 厚生労働省老健局長

[原老健局長説明](#)

「新地域支援構想会議の取り組みと新たな地域支援への考え方」

堀田力 さわやか福祉財団理事長

[堀田理事長講演](#)

「実践から学ぶ！住民主体の助け合い活動とは」

中村秀一 医療介護福祉政策研究フォーラム理事長

朝川知昭 厚生労働省老健局振興課長

[中村・朝川氏コメント](#)

◎新情報 高齢社会NGO連携協議会(高連協)総会 5・12 日本記者クラブ から

樋口恵子代表 高齢社会をよくする女性の会理事長 あいさつ

堀田力代表 さわやか福祉財団理事長 あいさつ [高連協総会両代表あいさつ](#)

◎新論考 『 丈人力のススメ「人生90年時代」をこう生きる 』 [『人生90年時代』全 a](#)

◎本誌制作 三世代(9歳～100歳)年表 人口・流行歌・流行語 [世代年表・人口流行語流行歌](#)

◎web「月刊丈風(じょうふう)」:毎月中に公開。[前月号まで](#)

◎編集月旦 [編集月旦 2014 年6月号](#)

編集人・堀内正範 朝日新聞社社友(元『知恵蔵』編集長)

tel & fax 0475-42-5673 〒 299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 9340-8

blog らうんじ・茶王樹・南九十九里から <http://myhp.ne.jp/chaoju/lounge>

